

交通シミュレーション講演会（四国ブロック）

交通シミュレーションに関するアンケート調査 概略結果報告資料

社団法人 交通工学研究会

交通シミュレーショングループ（四国ブロック担当）

2006/04/14



1

①アンケート調査の概要

■ 調査目的

- ・ 今後の交通シミュレーション普及活動に向けた参考データ取得

■ 調査日およびアンケート票回収日

- ・ 調査日：平成18年3月14日（月）
- ・ 講演会受付で配布、会場で当日回収
- ・ 配布票：約90票、回収票：60票

2006/04/14



2

①アンケート調査の概要（調査票）

H18.3.13 交通シミュレーション講演会(飯山ブロード)

「交通シミュレーションに関するアンケート調査」へのご協力をお願い

本日は、講演会にご参加いただきありがとうございます。大変お手数ではございますが、以下のアンケートにお答えください。
調査結果は、今後の交通シミュレーション普及活動の参考にさせていただきます。
(記入していただいたアンケート票は、休憩時間またはお帰りの際にご提出ください)

【アンケート調査票】

1. あなたの年齢・御所属先・担当業務についてお聞かせします。

【年齢】 1. 10代 2. 20代 3. 30代 4. 40代 5. 50代 6. 60歳以上

【所属先】 1. 大学関係者 2. 行政関係者(国) 3. 行政関係者(地方自治体) 4. 公務関係者
5. 公益法人等 6. 建設会社 7. コンサルタント会社 8. 学生 9. その他()

【担当業務】 1. 企画・計画 2. 設計 3. 建設 4. 維持 5. 研究 6. その他()

2. 交通シミュレーションに対する印象についてお聞かせします。
あなたが交通シミュレーションに対して抱いている印象について、次の設問にお答えください。
(各設問について、最も近い回答を選択してください)

1. 交通シミュレーションという言葉を知ったことが(あった なかった)

2. 交通シミュレーションがどのようなものであるか(知っていた 知らなかった)

3. 時々刻々と変化する交通渋滞状況などを解析するためには、交通シミュレーションが有用であることを(知っていた 知らなかった)

4. 交通シミュレーションを業務や研究で活用することに(興味がある 特に興味はない)

5. 交通シミュレーションを実際に(使っていた 使っていない)

3. 交通シミュレーションの活用経験についてお聞かせします。
今まであなたが取り組んだ業務・研究のうち、交通シミュレーションを活用したことのある分野を(複数回答可)でお答えください。
(経験のある全ての分野の番号を○囲み) ※交通シミュレーション活用分野は、本票の裏面を参照

1. 局所渋滞対策 2. 都市交通施設整備 3. 商業施設・イベント対策
4. ITS・新技術評価 5. TDM・流入規制 6. 交通規制 7. 道路網計画・評価
8. その他() 9. 適用したことがない

4. 交通シミュレーションを活用する際の課題についてお聞かせします。
現時点で、交通シミュレーションを活用する際の課題となっている問題、もしくは、適用したときの課題をお答えください。(該当する全ての番号を○囲み)

1. 交通シミュレーションをどのように活用すべきか分からない

2. 交通シミュレーションに関する情報がない

3. データの取得に問題がある(効率的にデータが取得できない 等)

4. 作業費用がかかりすぎる

5. 信頼性が低い

6. その他()

H18.3.13 交通シミュレーション講演会(飯山ブロード)

5. 交通シミュレーション活用分野の必要性・ニーズについてお聞かせします。
現時点で、交通シミュレーションの活用について、何らかの必要性・ニーズがある分野をお答え下さい。
(必要性・ニーズのある全ての分野の番号を○囲み)

1. 局所渋滞対策 2. 都市交通施設整備 3. 商業施設・イベント対策
4. ITS・新技術評価 5. TDM・流入規制 6. 交通規制 7. 道路網計画・評価
8. その他()

6. 交通シミュレーションの活用意向についてお聞かせします。
今後、交通シミュレーションを活用したい分野をお答え下さい。
(活用したい全ての分野の番号を○囲み)

1. 局所渋滞対策 2. 都市交通施設整備 3. 商業施設・イベント対策
4. ITS・新技術評価 5. TDM・流入規制 6. 交通規制 7. 道路網計画・評価
8. その他()

7. 取り組みの課題・意見についてお聞かせします。
2～6でお答えいただいた内容を踏まえ、交通シミュレーションの活用に関する現状の課題や今後取り組みの課題・意見・ご提案等につきまして、ご記入下さい。
(どのようなことでも構いませんので、お気軽にご記入ください)

以上で終了です。ご協力、ありがとうございました。

***** 参 考 *****

院内の交通シミュレーション活用分野は、以下を参考にしてください。

1. 局所渋滞対策 → 車線部の改良(車道幅員の改良、道路幅員の改良、車線設置等)、
交差点の改良(交差点立体化、右左折専用車線の整備、信号制御方式の変更等) 等
2. 都市交通施設整備 → 駅間・交通広場の整備に伴う評価、駐車場・荷捌き施設の整備、バスレーン導入評価 等
3. 商業施設・イベント対策 → 大規模店舗等の施設立地に伴う交通アクセス評価、イベント開催(マラソン、祭
り等)に伴う交通アクセス評価 等
4. ITS・新技術評価 → ETC導入評価、ITS導入評価、経路誘導評価、P-TIS導入評価(マラソン、祭
り等)に伴う交通アクセス評価 等
5. TDM・流入規制 → 複数手段の組み合わせ利用(パークアンドライド等)、交通需要の削減・平準化
(ゾーニング、時差出勤、フレックスタイム等)、適切な交通利用の誘導(コ
ミュニティ道路、トラフィックモーター等)、ロードプライシング 等
6. 交通規制 → 道路工事に伴う交通規制の評価、交通規制に伴う迂回経路の検討 等
7. 道路網計画・評価 → 高速道路計画(バイパス、環状線等)、市街地計画(都
市計画道路、地区計画道路等) 等
8. その他 → 災害時におけるネットワーク評価、車両以外のモードのシミュレーション(自転車、歩行者、人、自転車等)、環境評価シミュレーション(大気汚染、騒音、地球温
暖化等) 等

調査主体：(社)交通工学研究会
当アンケートに関するお問い合わせは、講演会事務局(受付)までお願いいたします。

2006/04/14

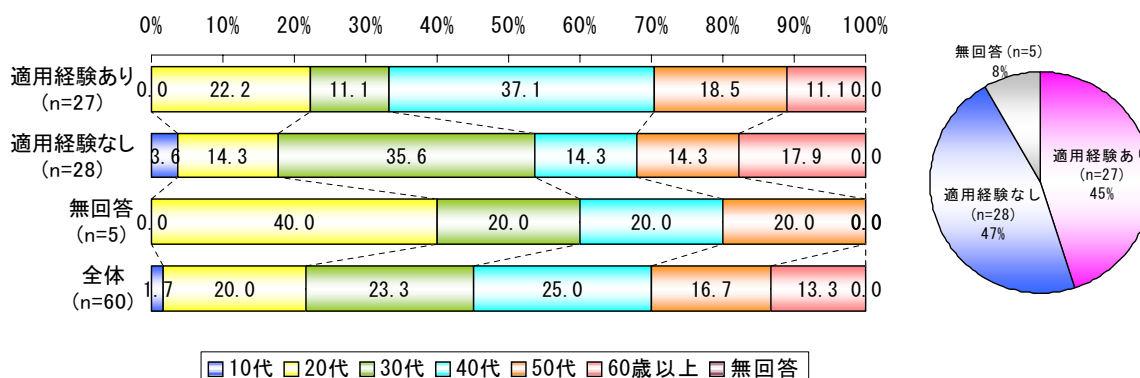
3

②アンケート調査結果

1. あなたの年齢・御所属先・担当業務についてお聞きします

回答者の年齢は、『40代』(25.0%)が最も多く、次いで『30代』(23.3%)、『20代』(20.0%)、『50代』(16.7%)となっている。

『適用経験あり』では『40代』(37.1%)が、『適用経験なし』では『30代』(35.6%)が最も多い。

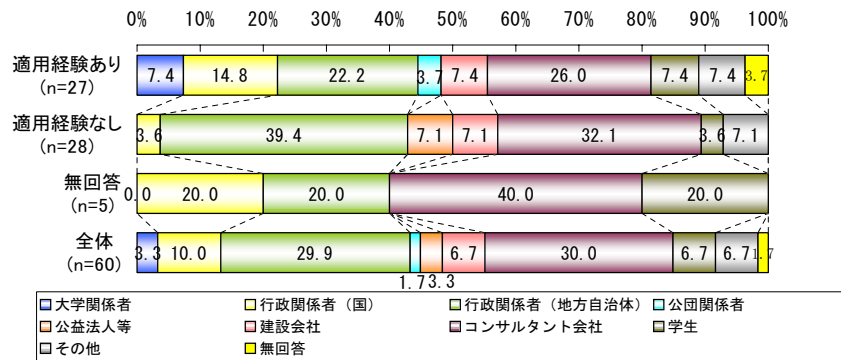


2006/04/14

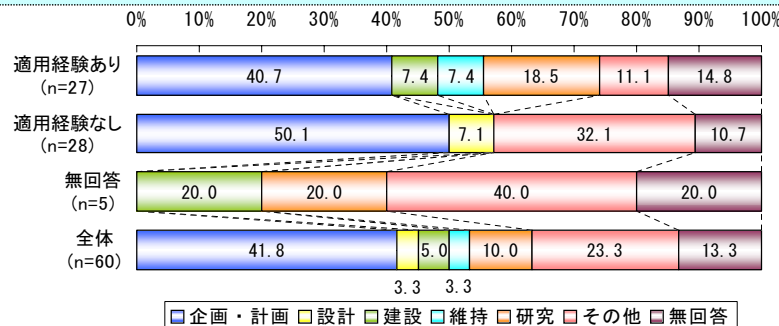
4

回答者の所属先は、『コンサルタント会社』(30.0%)が最も多く、次いで、『行政関係者(地方自治体)』(29.9%)となっている。

『行政関係者(国)』は、適用経験ありがなしを上回るが、『行政関係者(地方自治体)』は適用経験なしが多い。



回答者の担当業務は、『企画・計画』(41.8%)が最も多く、『その他』(23.3%)がこれに次ぐ。『建設』や『維持』、『研究』では、『適用経験あり』がなしを上回る。

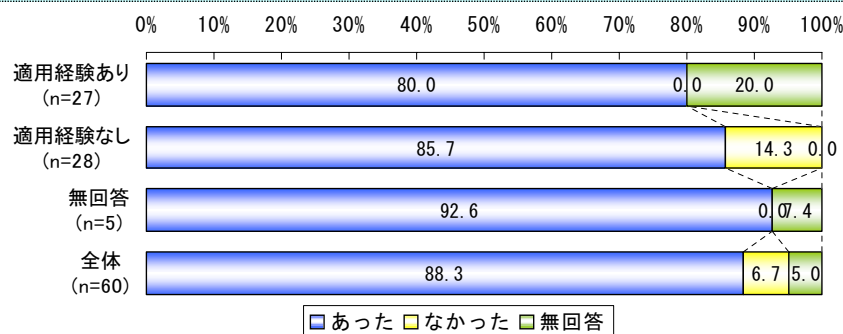


2006/04/14

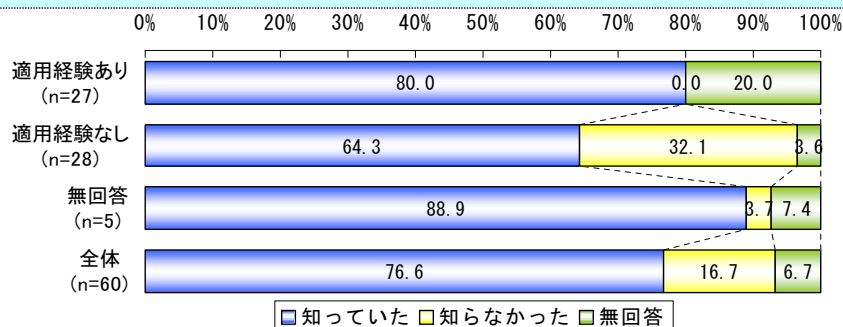
5

2. 交通シミュレーションに対する印象についてお聞きします

1. 交通シミュレーションという言葉聞いたことが『あった』(88.3%)『なかった』(6.7%)



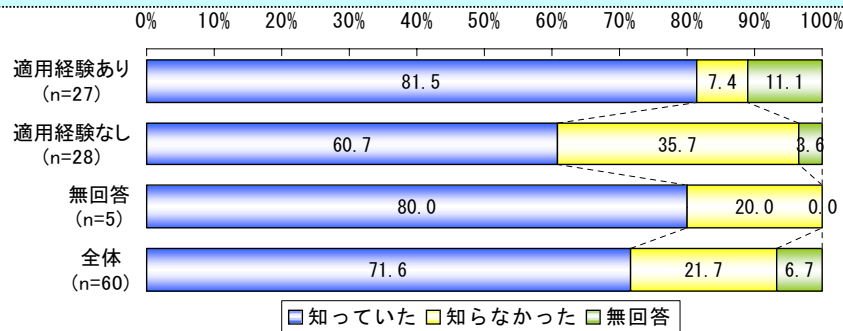
2. 交通シミュレーションがどのようなものであるか『知っていた』(76.6%)『知らなかった』(16.7%)



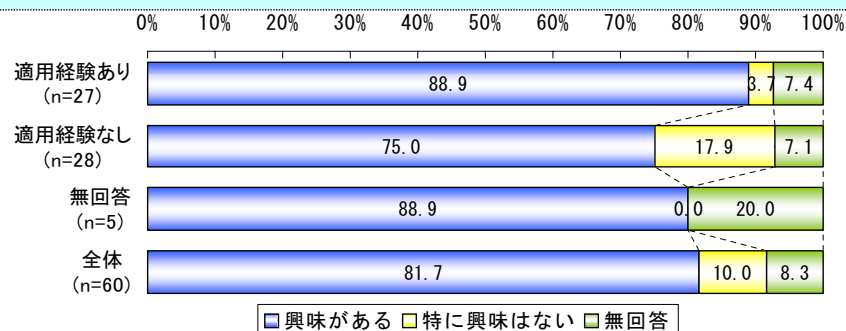
2006/04/14

6

3. 時々刻々と変化する交通渋滞状況などを解析するためには、交通シミュレーションが有用であることを『知っていた』(71.6%)『知らなかった』(21.7%)

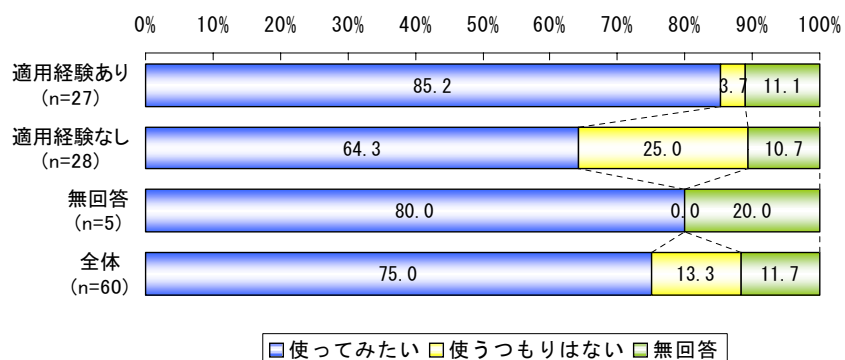


4. 交通シミュレーションを業務や研究で活用することに『興味がある』(81.7%)『特に興味はない』(10.0%)



2006/04/14

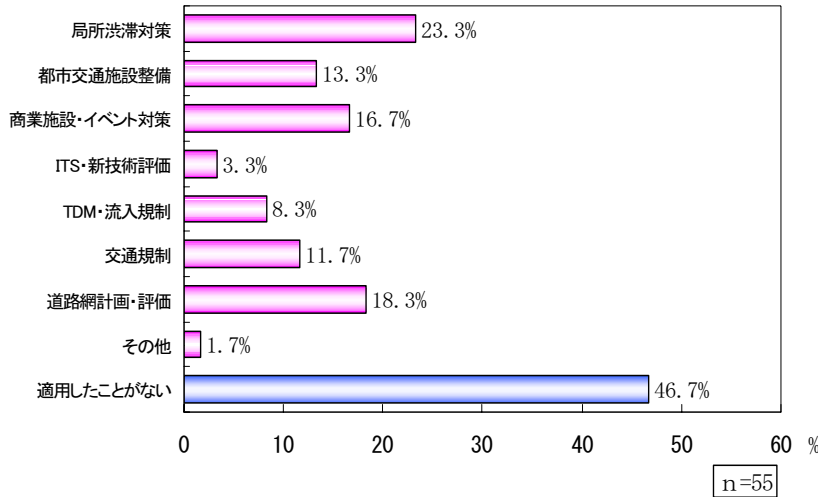
5. 交通シミュレーションを実際に『使ってみたい』(75.0%)『使うつもりはない』(13.3%)



2006/04/14

3. 交通シミュレーションの適用経験についてお聞きします

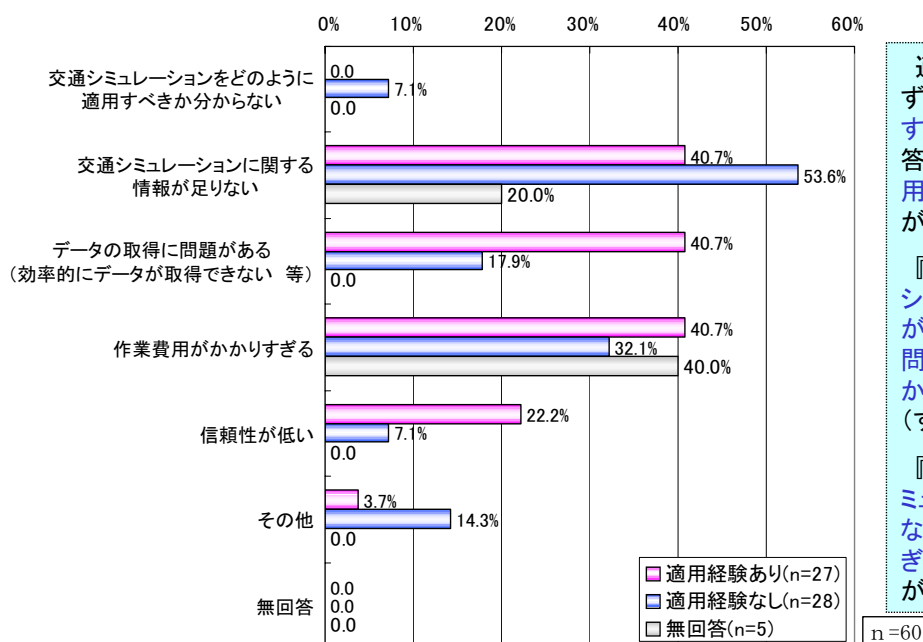
『適用したことがない』(46.7%)が最も多く、次いで、『局所渋滞対策』(23.3%)、『道路網計画・評価』(18.3%)、『商業施設・イベント対策』(16.7%)となっている。



項目	内容
1. 局所渋滞対策	単路部の改良(平面線形の改良、サグ・クレスト部の改良、追い越し車線設置等)、交差点の改良(交差点立体化、右左折専用車線の整備、信号制御方式の変更等)等
2. 都市交通施設整備	駅前・交通広場の整備に伴う評価、駐車場・荷捌き施設の評価、バスレーン導入評価等
3. 商業施設・イベント対策	大規模店舗等の施設立地に伴う交通アセスメント、イベント開催(マラソン、祭り等)に伴う交通アセスメント等
4. ITS・新技術評価	ETC導入評価、AHS導入評価、経路誘導評価、PTPS導入評価等
5. TDM・流入規制	複数手段の組み合わせ利用(パークアンドライド等)、交通需要の低減・平準化(ノーマイカーデー、時差出勤、フレックスタイム等)、適切な交通利用の誘導(コミュニティ道路、トランジットモール等)、ロードプライシング等
6. 交通規制	道路工事に伴う交通規制の評価、交通規制に伴う迂回制御の検討等
7. 道路網計画・評価	高速道路整備計画、一般道整備計画(バイパス、拡幅事業等)、街路整備計画(都市計画道路・地区関連道路等)等
8. その他	災害時におけるネットワーク評価、車両以外のモードのシミュレーション(LRT・路面電車・人・自転車等)、環境評価シミュレーション(大気汚染、騒音、地球温暖化等)等

2006/04/14

4. 交通シミュレーションを適用する際の問題についてお聞きします



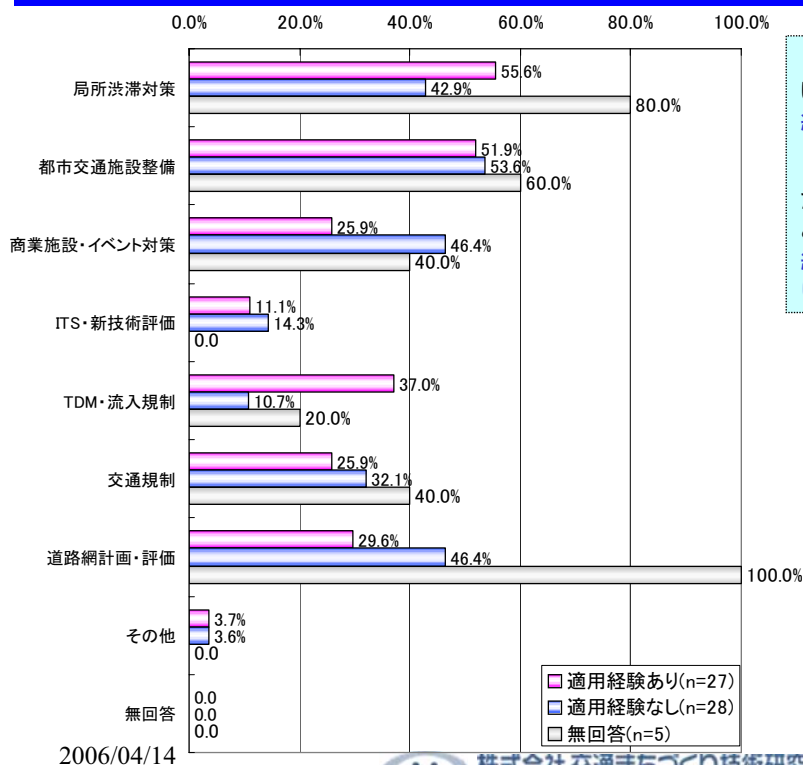
適用経験の有無にかかわらず、『交通シミュレーションに関する情報が足りない』という回答が最も多く、次いで『作業費用がかかりすぎる』という回答が多い。

『適用経験あり』では、『交通シミュレーションに関する情報が足りない』、『データの取得に問題がある』、『作業費用がかかりすぎる』とする回答が多い(すべて40.7%)。

『適用経験なし』では『交通シミュレーションに関する情報がない』や『作業費用がかかりすぎる』の比重が高い点に特徴がある。

2006/04/14

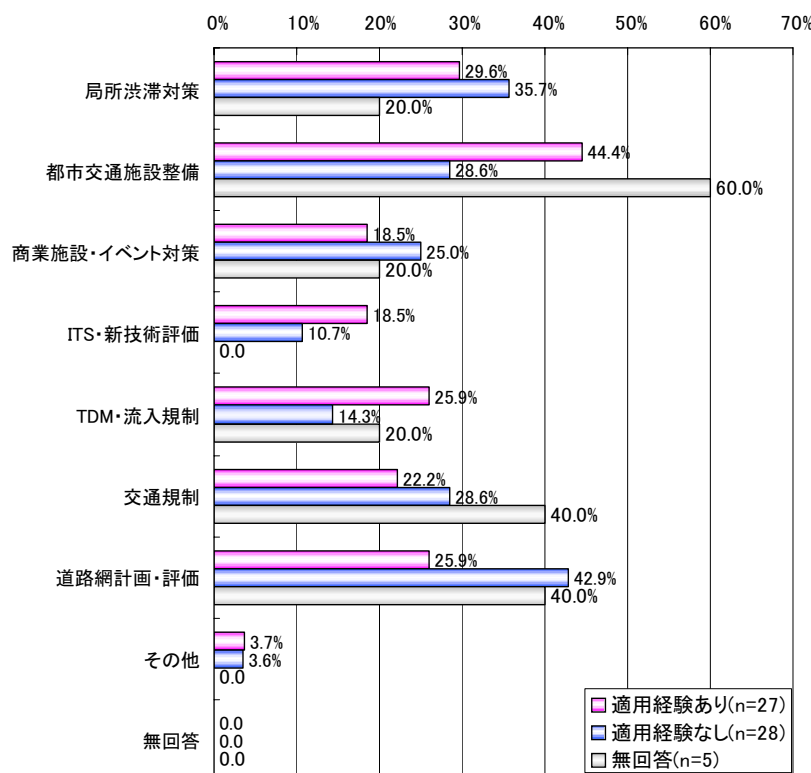
5. 交通シミュレーション適用の必要性・ニーズについてお聞きします



『都市交通施設整備』が最も多く、次いで、『局所渋滞対策』、さらに『道路網計画・評価』という回答が多かった。

適用経験の有無別で差が大きかった項目は、『商業施設・イベント対策』と『TDM・流入規制』で、前者は『適用経験なし』が多く、後者は『適用経験あり』が多くなっている。

6. 交通シミュレーションの取り組み意向についてお聞きします



『都市交通施設整備』が最も多く、『道路網計画・評価』、『局所渋滞対策』がこれに次ぐ。これらの項目は、必要・ニーズでも上位を占める項目である。

また、『適用経験あり』では『TDM・流入規制』や『ITS・新技術評価』の、『適用経験なし』では『交通規制』や『商業施設・イベント対策』に対する取り組み意向も多い。

補遺. 自由意見

- アンケート回答者60名の25%にあたる15名が自由意見を記載
- 課題(7)に関する意見が多い。(以下、期待・感想(5)、要望(2)、疑問(1)の順)
- 課題では、財源の確保、市民へのわかりやすい情報提供、シミュレーションの技術的な面(モデルの再現性の向上など)という意見がそれぞれ2件ずつあった。他、多角的なシミュレーションの開発、地域独自の行動特性に対する考慮、シミュレーション適用の目的が大切、などの意見もあった。
- 期待・感想では、シミュレーションについて、広く一般の人に情報提供できる場があればよいという意見や、短期的な対応・交通事故防止対策に対する期待などの意見があった。
- 要望では、シミュレーションの用途・特徴の違いがわかりにくいので、細かく説明した本を出して欲しいという意見や、渋滞対策への活用の要望があった。
- 疑問では、一般的な価格が不透明であることと、どのような条件のときに適用すべきかがわからない、という意見があった。



今後の普及・啓発活動の課題は・・・

**認知度の向上と、利用のきっかけづくりのために、
今回同様の活動を、機会をとらえて実施していく必要がある**

2006/04/14

13

自由意見

分類	回答内容
期待・感想	シミュレーションについて、もう少し幅広く一般の方々に情報提供できるような場があればよいと思います。
	短期的な対応に有効的なのかなと思いました。今後利用してみたいです。
	松山都市圏全体で検討してみたいと思った。
	交通事故防止対策に活用できればよい。
	ゲーム感覚で楽しく勉強できる方法はないかな。
要望	MITSIM, SOUND, DebNets等の様々なシミュレーションの用途・特徴の違いが分かりにくい。細かく説明した本を出してほしい。
	信号制御に活用することによる渋滞対策を望む
課題	・様々な角度(交通以外)からの評価を行えるシミュレーションの開発。
	・施設内、都心の組み合わせ(歩行者)。
	目的が大切であろう
	財源の確保と市民への分かりやすい情報提供の仕方
	財源確保、市民への分かりやすい情報提供
	地域独自の行動特性を考慮する必要がある
	集計モデルに比べ、感度が高すぎる
疑問	モデルの再現性の向上と、適格なパラメータの設定が必要である。そのためには、個々の場所における調査をして、パラメータを推定して再現性の向上を図る必要があると思う。
	・費用が不明確(データ収集に左右されるが、一般的な価格が不透明)。 ・商業施設について適用する場合、立地状態・施設規模等によりシミュレーションするまでもない案件もあると考えられるが、どういう条件の際に適用すべきか不明確。

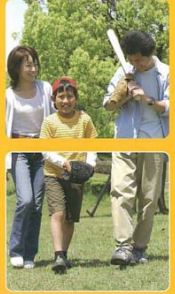
2006/04/14

14



交通まちづくり
世界から考える
松山から考える

松山から考える 交通まちづくりフォーラム



参加無料 随時入場可 となたでもご参加できます

日時: 2006年3月13日(月)・開演10:00(開場9:30)
場所: 愛媛大学 総合情報メディアセンター大ホール(1F)
主催: 松山都市圏幹線道路渋滞対策懇談会 / 松山河川国道事務所
共催: 愛媛大学 / (社)交通工学研究会

四国最大の都市である松山市は、築城400年を迎えた松山城を中心とした城下町の整備や豊後川の治水など、17世紀から近代的な都市づくりを行ってきた歴史があります。

本フォーラムでは、今後の松山のまちづくりやそのための政策などを提示するとともに、日本国内や世界での代表的なまちづくりの取組み事例を紹介し、コンパクトなまちづくりを行っていくうえで、必要な交通ネットワークなど、交通問題解決のための方向性を、市民の方々とともに探っていきたいと考えています。

■ プログラム

第一部: 交通シミュレーション講習会「道づくり、まちづくりへの適用と実際」

■10:00-10:10 交通シミュレーションへの期待
四国地方整備局 道路調査官 野崎智文 / 愛媛大学工学部 助教授 羽藤英二

■10:10-10:50 1. 交通シミュレーションとまちづくりへの適用 / 流通科学大学情報学部教授 森津秀夫

■10:50-12:00 交通シミュレーションの適用事例
2. まちづくりへのシミュレーション適用事例 / (株) 交通まちづくり技術研究所 飯田祐三
3. 松山での道路整備評価へのシミュレーション適用事例 / (株) オリエンタルコンサルタンツ 金塚亮教
4. シミュレーション技術の今後の展開 / 京都大学大学院工学研究科 菊池隆

■12:00-13:00 昼食・シミュレーションデモ

第二部: 世界から考える 地方から考える「交通まちづくりの新たな潮流」

■13:00-13:10 挨拶 / 松山河川国道事務所 所長 菊池雅彦

■13:10-13:40 基調講演 交通まちづくりの時代 / 東京大学大学院 教授 原田昇

■13:40-15:10 交通まちづくりのヒント 世界から考える 地方から考える
・クワイスターチャーズ: 自律管理型交通まちづくり / (社) 日本能率協会総合研究所 主任研究員 平石浩之
・フライブルグ: 被災復興からのまちづくり / (株) 公共計画研究所 代表取締役 今西芳一
・LRTさっぽろ: 市民からの公共交通中心のまちづくりの提案 / LRTさっぽろ 代表 吉岡高
・那覇トランジットマールの挑戦 / 国土交通省 都市・地域整備局 課長補佐 松浦利之

■15:10-15:30 休憩

第三部: 「松山の交通まちづくりを考える」

■15:30-16:10 松山都市圏の交通対策とまちづくり / 松山河川国道事務所 所長 菊池雅彦
(主要幹線交差点の立地、松山外環状道路の整備、ソフト施策による渋滞対策の取組み)
松山市各地区の交通まちづくり / 松山市 都市整備部 企画官 相原孝雄
(ロープウェイ街等の事例を通して)

■16:20-17:30 パネルディスカッション「松山都市圏の交通まちづくり 何が必要か、どうあるべきか」
司会 愛媛大学 羽藤英二 / パネリスト 松山大学大学院 原田昇
(社) 日本能率協会総合研究所 平石浩之 / 松山河川国道事務所 菊池雅彦 / 松山都市整備部 相原孝雄

■ アクセス

※駐車場が少なく、できるだけ公共交通をご利用下さい

■ 松山駅
・伊予鉄道松山駅西口から徒歩10分(徒歩10分)
1. 2番出口(徒歩5分)「松山駅西口」下車。
2. 3番出口(徒歩5分)「松山駅西口」下車。
3. 4番出口(徒歩5分)「松山駅西口」下車。
4. 5番出口(徒歩5分)「松山駅西口」下車。

■ 松山駅前
・伊予鉄道松山駅前(徒歩5分)から徒歩10分(徒歩10分)
1. 2番出口(徒歩5分)「松山駅前」下車。
2. 3番出口(徒歩5分)「松山駅前」下車。
3. 4番出口(徒歩5分)「松山駅前」下車。
4. 5番出口(徒歩5分)「松山駅前」下車。

■ 松山駅前
・伊予鉄道松山駅前(徒歩5分)から徒歩10分(徒歩10分)
1. 2番出口(徒歩5分)「松山駅前」下車。
2. 3番出口(徒歩5分)「松山駅前」下車。
3. 4番出口(徒歩5分)「松山駅前」下車。
4. 5番出口(徒歩5分)「松山駅前」下車。

※お問い合わせ: 国土交通省 四国地方整備局 松山河川国道事務所 調査第一課 フォーラム事務局
TEL: 089-972-0034 FAX: 089-972-8117 E-mail: matuya60@skr.mlit.go.jp
※事前参加申し込みは不要ですが、当日受付にて所定・お名前等をご記入頂きます

2006/04/14

15

講演会とデモンストレーションの様子



2006/04/14

16